京都帝國大學經濟學會

經濟論叢

第十七卷　第六號

大正十二年十二月一日發行

論叢

土地課稅新案……法學博士　神戸正雄

價値の量……法學士　恒藤恭

世界經濟の意義……法學士　作田莊一

鎌倉時代の土地制度……文學博士　三浦周行

時論

農民土地愛着心冷却の傾向……法學博士　河田嗣郎

震災と租稅……法學博士　小川鄉太郎

說苑

マルサスの地代論に就て……經濟學士　谷口吉彥

雜錄

アダム・スミスの書簡一通……法學博士　河上肇

「資本と勞働」と「勞働と資本」……法學士　山口正太郎

リカアド經濟論文集の刊行……經濟學士　谷口吉彥

名士の死の心理に關する統計的研究……經濟學士　岡崎文規

附錄

本誌第十七卷總目錄……

リカアド經濟論文集の刊行

谷口吉彦

今年一九二三年は、アダム・スミスの生誕二百年に相當すると共に、またリカアドの逝去一百年に相當する。前者に對しては、世界の各所に於て、之を記念するための各種の催しが行はれたが、後者に對しては、勿論それ程の注意は惹かれて居ない。けれども其れは全く學界からネグレクトされて居る譯ではなくて、近著の、The Economic Journal には、英國の經濟學史家ボナー氏が A Centenary tribute として "Ricardo's Ingot Plan" と題する長篇の論文を發表して居る。[1] さうして茲に紹介せんとする彼れの『經濟論文集』[2]が、また同じ年に出版さるゝことゝなつたのも、全く偶然とのみ見ることは出來ないであらう。

リカアドの著作集として既に存在せるものは彼れの友人にして後輩であるマカロックの手に成つた The Works of David Ricardo (1846) である。これにはマカロックの筆に成るリカアドの傳記を附し、『原論』の外に九篇の勞作を輯めて居るから、彼れの論著は殆んど此の中に網羅された譯である。一八八一年に至つて版を重ね同時に扉の裏面にリカアドの肖像を載せることゝなつた。然るに一八九一年に至つて、特に彼れの『原論』だけが、リバプール大學のゴンナー教授に依つて獨立の一冊として刊行せられ、教授の手に成る詳細な評論、附錄及び書目が附せ

1) The Economic Journal, September, 1923 (Vol. XXXIII) pp.281—304.
2) Economic Essays by David Ricardo, London 1923.
3) 堀學士譯「リカアド經濟原論」は此書を藍本として用ひられたものである。
4) Gonner's ed., Economic Essays, by David Ricardo, Introductory Essay, p. XVII.
5) ibid., Preface.
6) High Price of Bullion. (1810)

らるゝことゝなつた。[3]

今年新たに刊行せらるゝことゝなつた彼れの『經濟論文集』も亦同じくゴンナー教授の手に依つたものであつて、教授自身の序文に謂ふ樣に『原論』の姉妹篇として企圖されたものである。輯錄する所の論文は、『貨幣及び金融問題に關する』[4]三篇と、『英國農業狀態の救治策に關する』二篇とであつて、國民銀行案及び減債基金論は、『一時的興味を惹いたに過ぎぬもので、從つて何れも再版を必要としない樣に見える』[5]との理由で削除されて居る。前記の五篇は何れもマカロックの出した著作集に採錄されて居るものではあるが、併し此の著作集すら、既に手に入り難くなつた今日に於て、ゴンナー教授の『論文集』の出たことは、我々の大いに便宜とする所である。

『地金の高き價格』[6]と題する最初の一篇は、經濟學者としてのリカアドを世に紹介した彼れの處女作である。彼れはすでに一七九九年の頃から、經濟學に興味を感じてその研究を怠らなかつたが、[7]當時の英國に於ける經濟的事情は、彼れを驅つて通貨問題を考察するに至らしめたのである。一八〇九年 Morning Chronicle の主筆ペリーの奬めに從つて『金の價格に就て』と題する書簡を同紙に連載したが、それが世間の注意を惹いたのに興味を感じて、翌一八一〇年之を增補して獨立のパンフレットとして出版したもの卽ち是である。今深くその內容に觸るゝを許さないが、要するに地金の高價なるは兌換券增發の結果であるから、金紙の開きのなくなるまで之を收縮せねばならぬことを論じたもので、此の提案は、此の年英國の下院に設けられて地金委員會の採用する所となつたものである。[8][9]

リカアド及び地金委員會の提案に對しては、『或種の偏見、無知及び利害關係から』[10]種々の反對を唱ふるものもあつたが、その中最も著しいものは、Bosanquet 氏のそれであつた。『地金委員會の報告に關するボサンケー氏の實際觀察に對する答辭』[11]と題するリカアドの第二の論文は、卽ち之に對する駁論である。マカロック

7) Mac Culloch, Life and Writings of David Ricards. 堀學士譯「リカアド經濟原論」附錄リカアドの小傳
8) Mac Culloch, ibid., p. XIX. Bonar, Ricardo's ingot—Plan.
9) 此の論文は又 Diehl und Mombert, Ansgewählle Lesesfucke zum Studium Dev Politischen Oekonomie, I Band, Vom Geld I にも "Dev hohe Preis dev Edelmetalle" として採錄されて居る。
10) Mac Culloch, Life and Writings of David Ricards, p. XIX.

の評する所に依れば、『リカアドは敵の根據そのものゝ上に立ち、敵の武器を採つてやつつけた』[12]のであつて、『彼れの勝利は、完全で十分』[13]であつた。

第三の論文は、『經濟的な健實な通貨に關する提案』[14]と題するもので、第一論文の第四版（一八一一年）に附け加へられた附錄の內容――有名な彼れの Ingot Plan――を主題として取扱ひ前記二篇を完成したものである。此の提案は一八一九年）上下兩院に於ける幣制委員會に採用せられ、此の年の八月二日議會を通過して法律となつた。[15]のみならず彼れの Ingot Plan は其後に起つた金爲替本位制に對して、有力な根據を與へたものである。[16]

最後の二篇は農業問題に關するものである。[17]英國に於ては、今次の大戰爭にも、食糧問題に關連して農業保護に關する諸問題が盛んに論議されたが、これと略々同じ事情の下にあつた一世紀前の當時に於ても亦、マルサス、リカアド等の學者は、盛んに此の問題に就て論議を重ねたのであつた。さうしてリカアドは、マルサスと略同樣の地代論を根據としながら、マルサスとは全く異り、穀物條例に反對して自由貿易論を主張したものである。

偖て、リカアドは其の經歷より來る自然の結果として、實際經濟界の事情に精通し、殊に金融及ひ通貨の問題に就て、洞徹した意見を有つて居たであらうことは明かである。然るに彼れの理論經濟を代表する所の『原論』は、その議論の抽象的且つ假設的な點に於て著しき特徵を有するが、此は恐らくマカロックの謂ふ樣に、議論を一般化せんとする彼れの希望から出たに過ぎないものであつて、實際の經濟問題に關する彼れの所論を一瞥する時は、理論經濟に於ける彼れの學風に對して顯著な對照を示して居る。さうして前記ボナー氏の A centenary tribute は、『通貨制度の改善に關する實行案の著者として』[18]のリカアドに關する研究であり、彼れの『經濟論文集』は同じく實際問題に關する彼れの勞作を輯めたものである。顧ふに彼れの時代は、マ

11) Reply te Mr. Bosanquet's Prastical Observations on the Report of the, Bullion Committee. (1811)
12) Mac Culloch, ibid., p. XX.
13) ibid., p. XX.
14) Proposals for an economical and secure currency. (1816)
15) Mac Culloch, ibid., p. XXII, Bonar, Ricardo's Ingot Plan.
16) Bonar, Ricardo's Ingot plan.

ーシャル教授がその近業に謂ふ様に、『ナポレオン戰爭の蹂躙と恐慌に依つて惹き起された所の信用及び價格の恐ろしき擾亂』のために、學者實際家の有能博識な人々が、此の(通貨)問題の研究に從事した[19]『時代であり、またボナー氏の謂ふ様に、『銀行劵に對する兌換の停止が十四年間も續いて、其の價値の下落が次第に著しくなつて來た』[20]時で、恰も『今日の吾々に於けると同じく、大戰爭及び其後に起つた所の通貨の混亂を救ふ』[21]ことが、當時の實際問題の核心をなした時機であつた。さうして『リカアドは是等の學者の間に於て首腦の地位を占めた人であつて、彼れの名聲の高かつたために、他の人々の勞作は、闇から闇に葬られた』[22]と謂はれる程の彼れの所論が、同じ問題に惱まされて居る今日特に學界の注意を惹くに至つたことは、決して偶然ではなからう。

17) Influence of a low price of corn on the profits of stock. (1815)
On Protection to Agricultwe. (1822)
18) Bonar, Ricardo's ingot plan (The Economic Journal, September 1923, p. 281)
19) Marshall, Money credit and Commerce 1923 p.41.
20) Bonar, ibid., p. 281.
21) ibid., p. 281
22) Marshall, ibid., p. 41. note.